

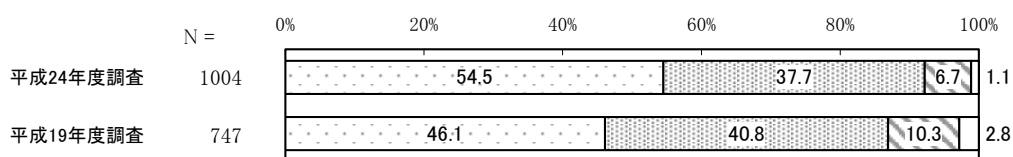
## 4 食育について

### 問 16 あなたは、「食育」という言葉やその意味を知っていますか。(1つに○)

「言葉も意味も知っている」と「言葉は知っているが、意味は知らない」をあわせた“食育の認知度”が92.2%となっています。

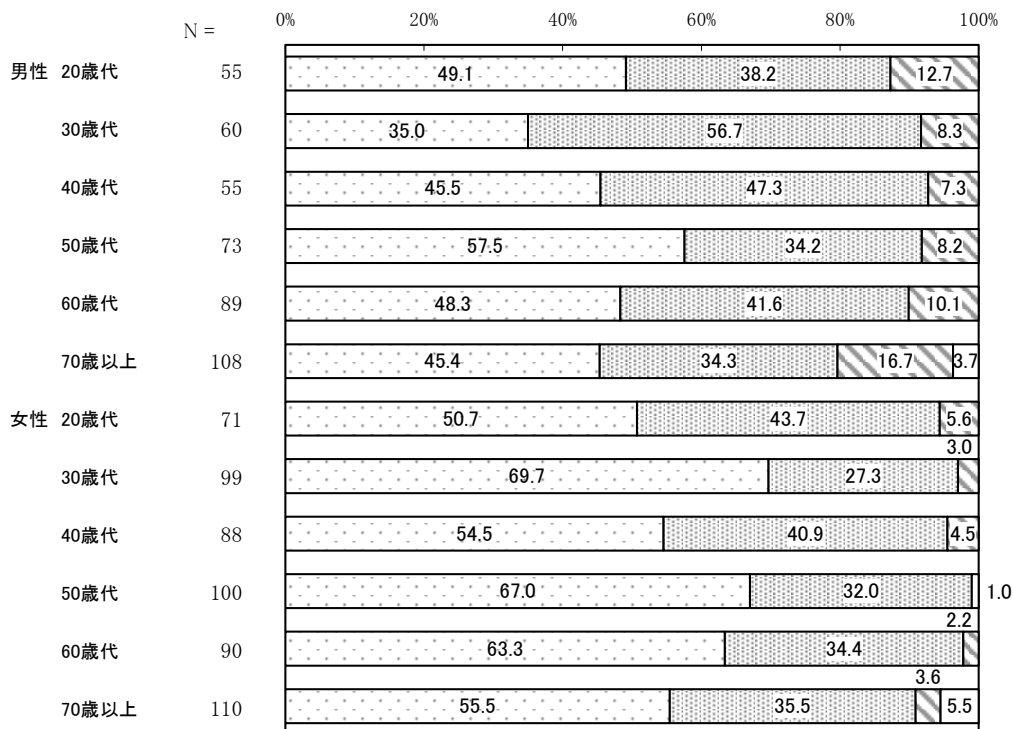
平成19年度調査と比較すると、“食育の認知度”が5.3ポイント増加しており、「言葉も意味も知っている」が8.4ポイント増加しています。

- 言葉も意味も知っている       言葉は知っているが、意味は知らない  
 言葉も意味も知らない       無回答



#### 【性別・年代別】

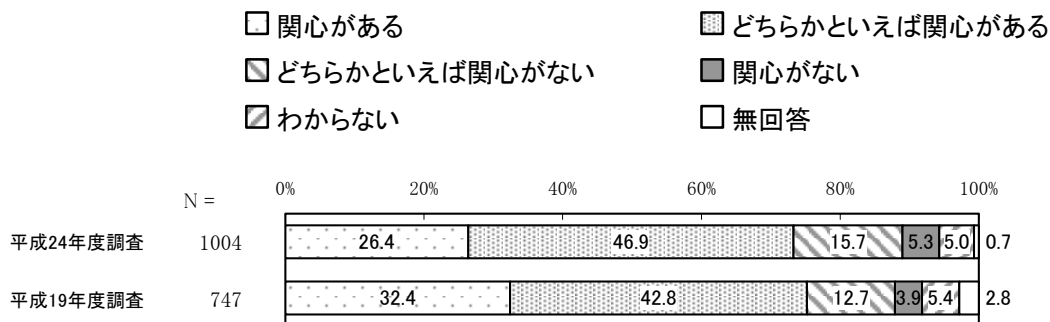
性別・年代別でみると、他の年代に比べ、女性30歳代、50歳代で「言葉も意味も知っている」の割合が、男性30歳代で「言葉は知っているが、意味は知らない」の割合が高くなっています。一方、男性70歳以上で「言葉も意味も知らない」の割合が高く、約2割となっています。



**問 17 あなたは、「食育」に関心がありますか。(1つに○)**

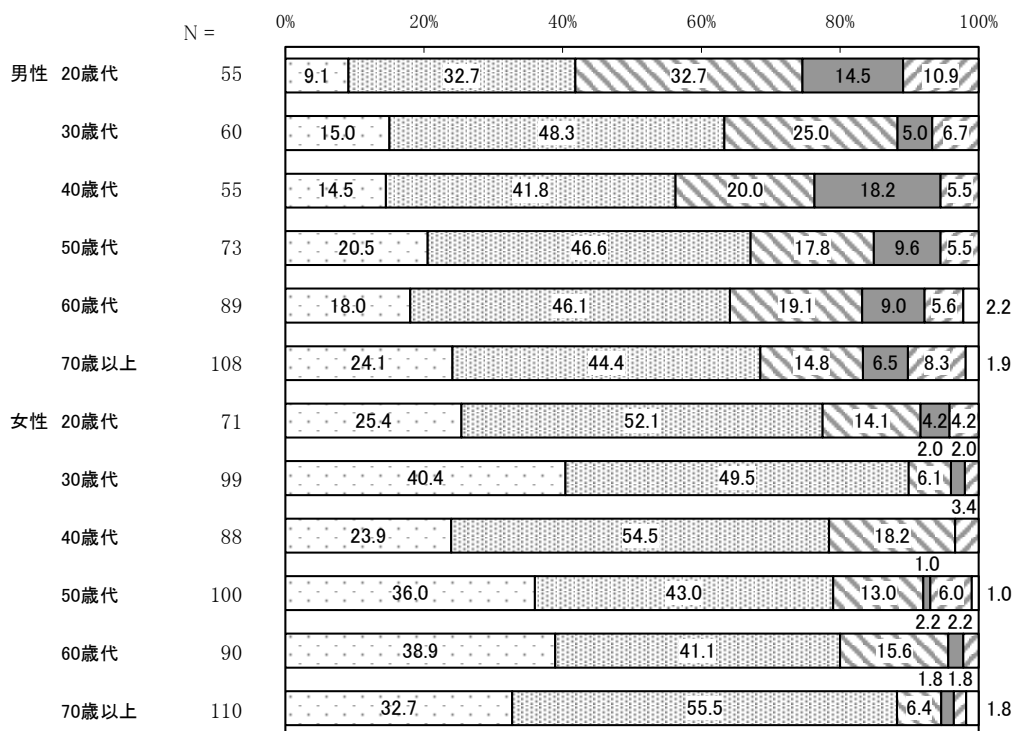
「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」をあわせた“食育の関心度”が73.3%となっています。

平成19年度調査と比較すると、“食育の関心度”に大きな差異はみられませんが、「関心がある」の割合が6.0ポイント減少しています。



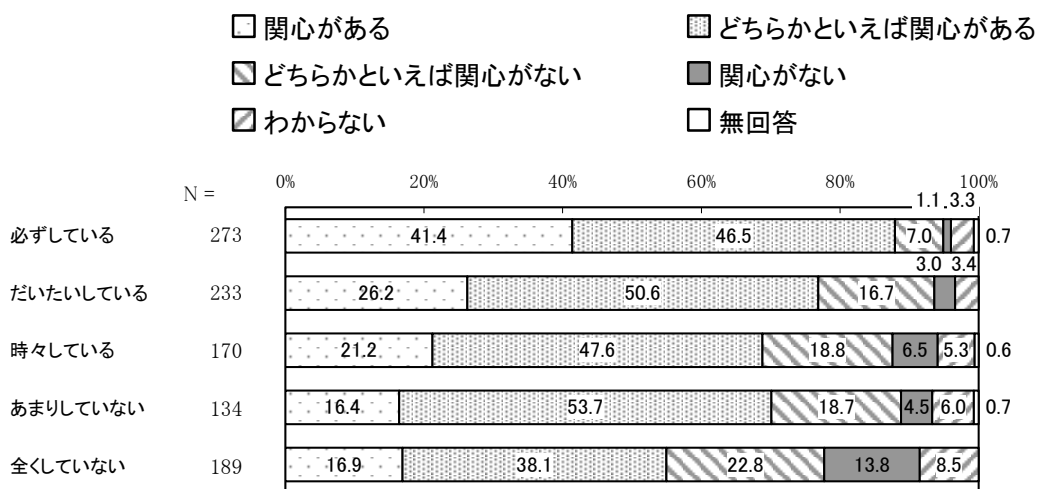
**【性別・年代別】**

性別・年代別でみると、他の年代に比べ、女性30歳代、60歳代、70歳以上で“食育の関心度”が高く、8割を超えている一方、男性20歳代、40歳代で“食育の関心度”が低く、6割未満となっています。



### 【自分で料理をする頻度別】

自分で料理をする頻度別でみると、自分で料理をする頻度が高くなるにつれて、“食育の関心度”が高くなる傾向がみられます。

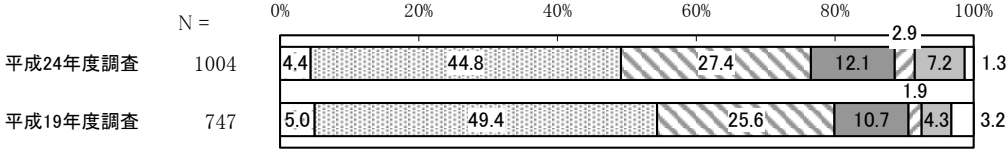


**問 18 あなたは、日ごろから、「食育」を何らかの形で実践していますか。(1つに○)**

「積極的にしている」と「できるだけするようにしている」をあわせた“食育の実践度”が49.2%となっています。

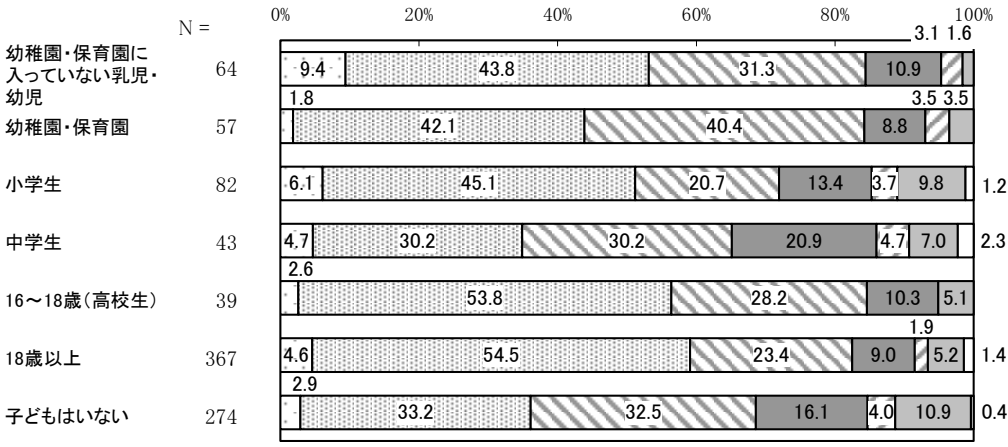
平成19年度調査と比較すると、“食育の実践度”が5.2ポイント減少しています。

- 積極的にしている
- できるだけするようにしている
- あまりしていない
- したいと思っているが、実際にはしていない
- したいとは思わないし、していない
- わからない
- 無回答



**【末子の年代別】**

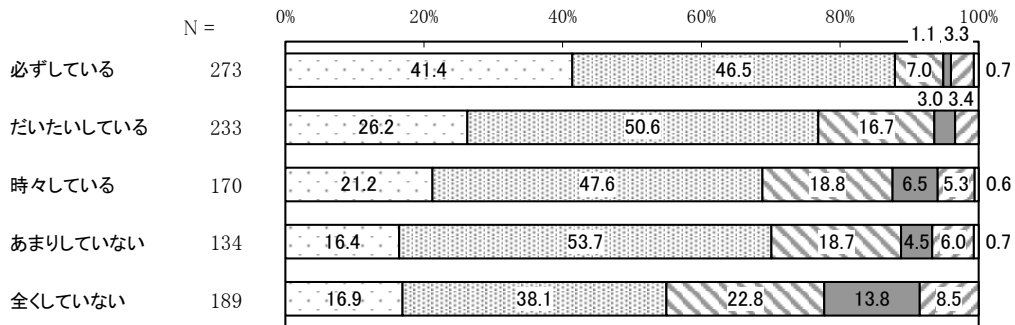
末子の年代別でみると、他の年代に比べ、中学生で“食育の実践度”が低く、4割未満となっています。



### 【自分で料理をする頻度別】

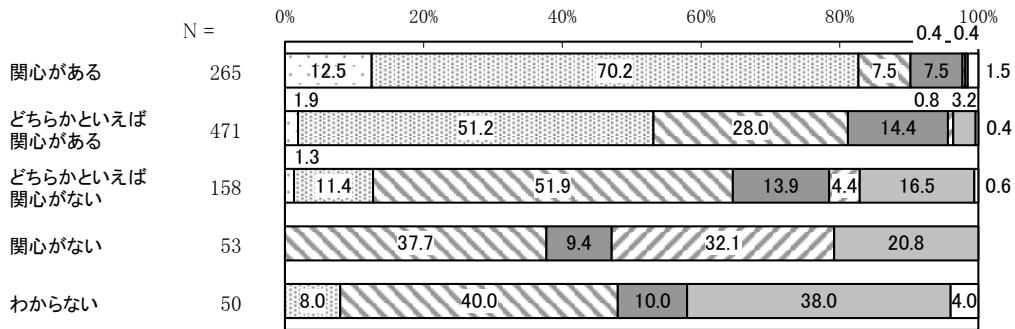
自分で料理をする頻度別でみると、自分で料理をする頻度が高くなるにつれて、“食育の実践度”が高くなる傾向がみられます。

- 積極的にしている
- できるだけするようにしている
- あまりしていない
- したいと思っているが、実際にはしていない
- したいとは思わないし、していない
- わからない
- 無回答



### 【「食育」への関心度別】

「食育」への関心度別でみると、関心度が高くなるにつれて、“食育の実践度”が高くなる傾向がみられます。

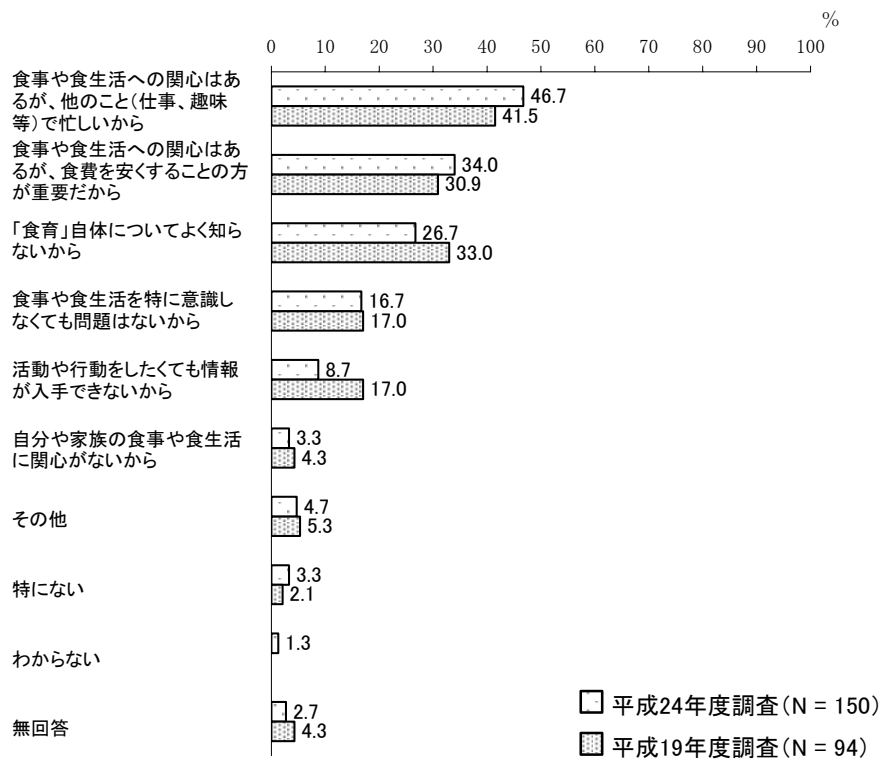


問 18 で「4. したいと思っているが、実際にはしていない」「5. したいとは思わないし、していない」と答えた方にお聞きします。

**問 19 あなたが食育を実践していない理由は何ですか。(あてはまるもの3つまでに○)**

「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」の割合が 46.7%と最も高く、次いで「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」の割合が 34.0%、「食育」自体についてよく知らないから」の割合が 26.7%となっています。

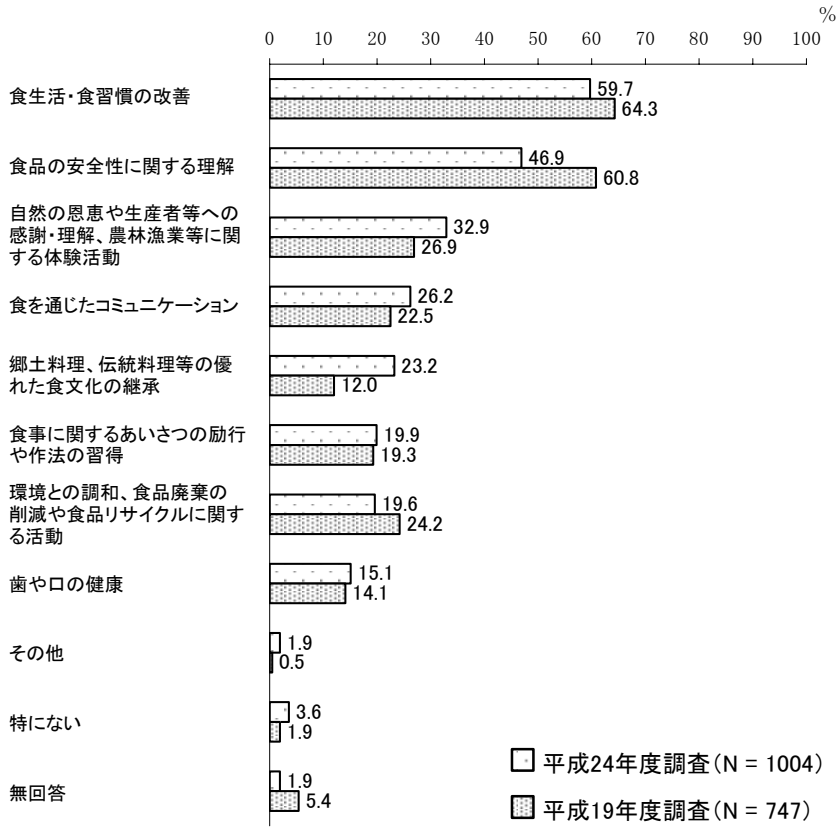
平成 19 年度調査と比較すると、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」の割合が 5.2 ポイント、「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」の割合がやや増加している一方、「活動や行動をしたくても情報が入手できないから」の割合が 8.3 ポイント、「食育」自体についてよく知らないから」の割合が 6.3 ポイント減少しています。



問 20 食育には様々な内容が含まれますが、どの分野を重点的に取組んだらよいと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)

「食生活・食習慣の改善」の割合が 59.7%と最も高く、次いで「食品の安全性に関する理解」の割合が 46.9%、「自然の恩恵や生産者等への感謝・理解、農林漁業等に関する体験活動」の割合が 32.9%となっています。

平成 19 年度調査と比較すると、「郷土料理、伝統料理等の優れた食文化の継承」の割合が 11.2 ポイント、「自然の恩恵や生産者等への感謝・理解、農林漁業等に関する体験活動」の割合が 6.0 ポイント増加しており、「食を通じたコミュニケーション」の割合がやや増加しています。一方、「食品の安全性に関する理解」の割合が 13.9 ポイント減少し、「食生活・食習慣の改善」「環境との調和、食品廃棄の削減や食品リサイクルに関する活動」の割合がやや減少しています。



## 【性別・年代別】

性別・年代別でみると、他の年代に比べ、男性 50 歳代で「食生活・食習慣の改善」の割合が高く、約 8 割となっています。また、女性 20 歳代で「食を通じたコミュニケーション」の割合が、女性 30 歳代で「食事に関するあいさつの励行や作法の習得」「自然の恩恵や生産者等への感謝・理解、農林漁業等に関する体験活動」の割合が、女性 60 歳以上で「食品の安全性に関する理解」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	食生活・食習慣の改善	食品の安全性に関する理解	食を通じたコミュニケーション	食事に関するあいさつの励行や作法の習得	自然の恩恵や生産者等への感謝・理解、農林漁業等に関する体験活動	環境との調和、食品廃棄の削減や食リサイクルに関する活動	郷土料理、伝統料理等の優れた食文化の継承	歯や口の健康	その他	特になし	無回答
男性 20 歳代	55	63.6	29.1	36.4	23.6	34.5	14.5	21.8	16.4	—	1.8	—
30 歳代	60	63.3	40.0	25.0	26.7	31.7	20.0	23.3	11.7	1.7	3.3	1.7
40 歳代	55	63.6	41.8	32.7	23.6	21.8	16.4	21.8	20.0	3.6	1.8	—
50 歳代	73	79.5	35.6	34.2	11.0	24.7	21.9	20.5	16.4	1.4	2.7	—
60 歳代	89	46.1	42.7	21.3	22.5	27.0	21.3	25.8	12.4	2.2	6.7	6.7
70 歳以上	108	40.7	50.0	13.0	9.3	30.6	21.3	15.7	14.8	3.7	8.3	6.5
女性 20 歳代	71	71.8	31.0	40.8	16.9	40.8	25.4	31.0	11.3	—	1.4	1.4
30 歳代	99	59.6	41.4	37.4	34.3	50.5	14.1	33.3	11.1	1.0	1.0	—
40 歳代	88	65.9	47.7	31.8	26.1	34.1	18.2	25.0	13.6	2.3	1.1	2.3
50 歳代	100	70.0	52.0	22.0	14.0	40.0	26.0	24.0	11.0	2.0	1.0	2.0
60 歳代	90	63.3	66.7	18.9	17.8	32.2	20.0	18.9	21.1	2.2	3.3	—
70 歳以上	110	45.5	63.6	17.3	18.2	22.7	15.5	18.2	22.7	1.8	6.4	—



### 【末子の年代別】

末子の年代別でみると、他の年代に比べ、幼稚園・保育園に入っていない乳児・幼児、小学生で「食を通じたコミュニケーション」の割合が、幼稚園・保育園に入っていない乳児・幼児で「食事に関するあいさつの励行や作法の習得」の割合が高く、約4割となっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	善 食生活・食習慣の改 善	食 品の安全性に関す る理解	食 を通じたコミュニ ケーション	食 事に関するあいさつ の励行や作法の習得	業 等に関する体験活動 への感謝・理解、農林漁 業等に関する体験活動	自 然の恩恵や生産者等 への感謝・理解、農林漁 業等に関する体験活動	環 境との調和、食品廃棄 物の削減や食品リサイク ルに関する活動	郷 土料理、伝統料理等の 優れた食文化の継承	歯 や口の健康	そ の他	特 にない	無 回答
幼稚園・保育園に入っていない乳児・幼児	64	46.9	45.3	42.2	40.6	39.1	21.9	26.6	6.3	—	1.6	1.6	
幼稚園・保育園	57	61.4	40.4	35.1	28.1	38.6	8.8	28.1	19.3	3.5	—	1.8	
小学生	82	64.6	37.8	42.7	23.2	32.9	17.1	20.7	17.1	1.2	1.2	1.2	
中学生	43	55.8	44.2	32.6	25.6	23.3	23.3	14.0	16.3	2.3	2.3	—	
16～18歳(高校生)	39	69.2	51.3	28.2	17.9	38.5	12.8	28.2	15.4	2.6	—	—	
18歳以上	367	60.5	53.4	22.6	16.9	31.1	22.1	22.9	15.3	1.9	3.8	1.9	
子どもはいない	274	60.2	43.4	22.3	17.2	33.6	21.2	23.4	16.1	2.6	4.0	1.8	

### 【「食育」への関心度別】

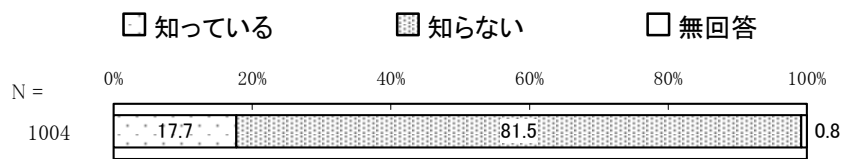
「食育」への関心度別でみると、他に比べ、関心がある人で「自然の恩恵や生産者等への感謝・理解、農林漁業等に関する体験活動」の割合が高く、約4割となっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	善 食生活・食習慣の改 善	食 品の安全性に関す る理解	食 を通じたコミュニ ケーション	食 事に関するあいさつ の励行や作法の習得	業 等に関する体験活動 への感謝・理解、農林漁 業等に関する体験活動	自 然の恩恵や生産者等 への感謝・理解、農林漁 業等に関する体験活動	環 境との調和、食品廃棄 物の削減や食品リサイク ルに関する活動	郷 土料理、伝統料理等の 優れた食文化の継承	歯 や口の健康	そ の他	特 にない	無 回答
関心がある	265	65.3	48.3	30.2	23.0	40.4	18.9	26.8	17.4	1.9	1.1	1.5	
どちらかといえば関心がある	471	60.9	51.0	27.2	21.0	34.8	20.2	23.6	14.0	1.3	0.8	0.8	
どちらかといえば関心がない	158	58.9	43.7	23.4	15.8	24.1	24.7	22.8	16.5	4.4	5.1	1.3	
関心がない	53	35.8	20.8	17.0	13.2	13.2	13.2	9.4	11.3	—	28.3	1.9	
わからない	50	54.0	44.0	18.0	16.0	26.0	10.0	18.0	16.0	—	10.0	10.0	

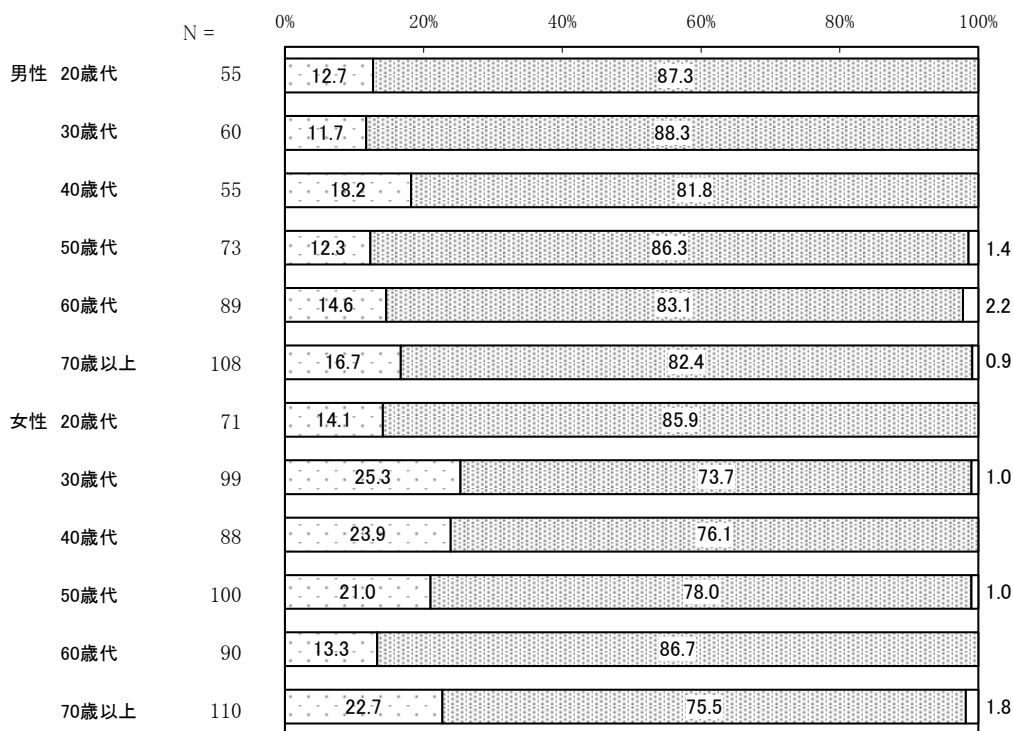
**問 21 あなたは、「三島市民家族団らんの日」を知っていますか。(どちらかに○)**

「知っている」の割合が 17.7%、「知らない」の割合が 81.5%となっています。



**【性別・年代別】**

性別・年代別で見ると、他の年代に比べ、女性 30 歳代で「知っている」の割合が高く、約 3 割となっています。

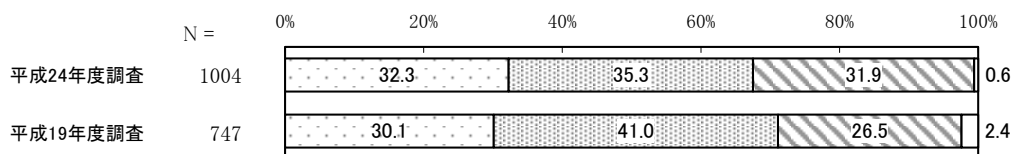


**問 22 あなたは、「食事バランスガイド」という言葉やその内容を知っていますか。(1つに○)**

「言葉も内容も知っている」と「言葉は知っているが、内容は知らない」をあわせた“食事バランスガイドの認知度”が 67.6%となっています。

平成 19 年度調査と比較すると、“食事バランスガイドの認知度”がやや減少しています。

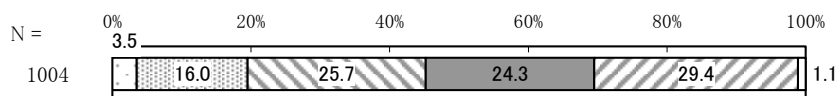
- 言葉も内容も知っている
- 言葉は知っているが、内容は知らない
- 言葉も内容も知らない
- 無回答



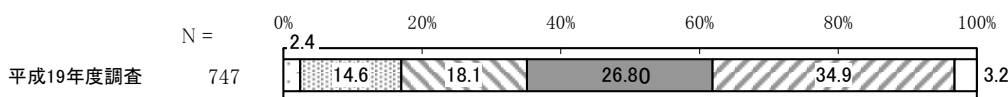
**問 23 あなたは、日ごろの健全な食生活を実践するため、何らかの指針等を参考にしていますか。(あてはまるもの1つに○)**

「いつも参考にしている」と「だいたい参考にしている」と「ときどき参考にしている」をあわせた“何らかの指針等を参考にしている人”の割合が45.2%となっています。平成19年度調査との比較については、設問が異なるため参考にとどめます。

- いつも参考にしている
- だいたい参考にしている
- ときどき参考にしている
- あまり参考にしていない
- 特に参考にしていない
- 無回答

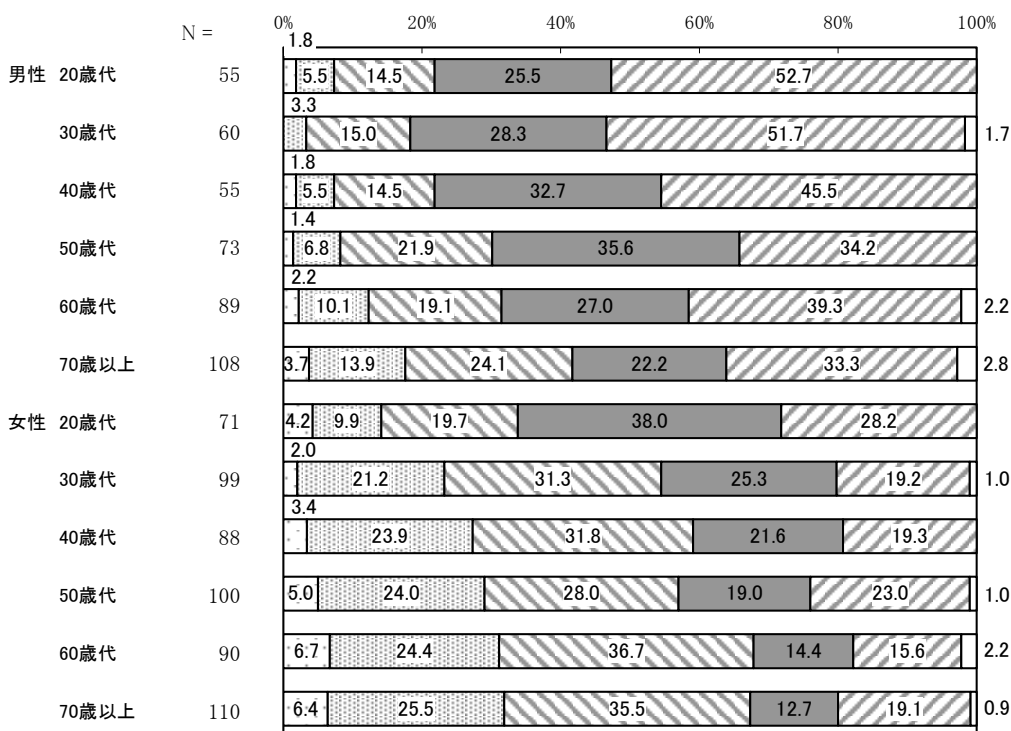


**【参考】あなたは、日ごろの健全な食生活を実践するため、「食事バランスガイド」等を参考にしていますか。**



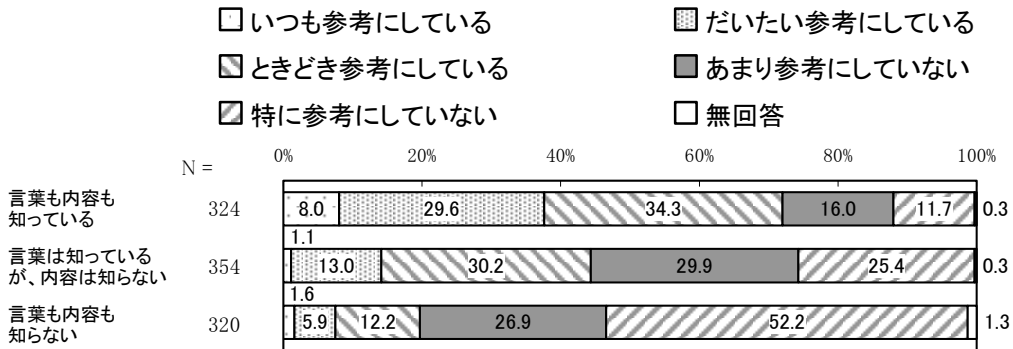
**【性別・年代別】**

性別・年代別で見ると、男女ともに年代が高くなるにつれて“何らかの指針等を参考にしている人”の割合が高くなっています。



**【「食事バランスガイド」の認知度別】**

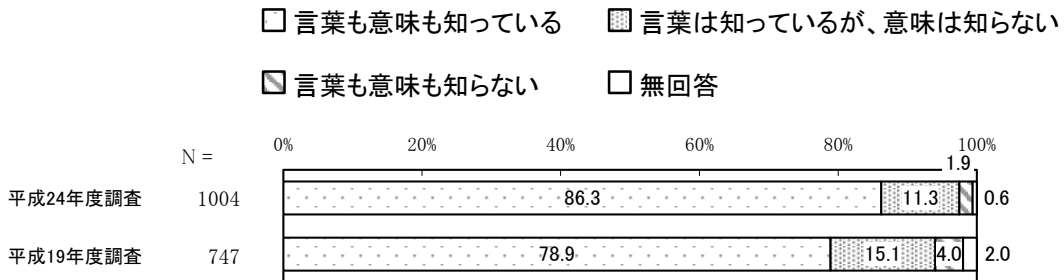
「食事バランスガイド」の認知度別でみると、言葉も内容も知っている人ほど、“何らかの指針等を参考にしている人”の割合が高くなる傾向がみられます。



**問 24 あなたは、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）という言葉やその意味を知っていますか。（1つに○）**

「言葉も意味も知っている」と「言葉は知っているが、意味は知らない」をあわせた“メタボリックシンドロームの認知度”が97.6%となっています。

平成19年度調査と比較すると、“メタボリックシンドロームの認知度”の割合がやや増加しており、「言葉も意味も知っている」の割合が7.4ポイント増加しています。



**問 25 「食品の安全に関する知識」とは、【健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選んだらよいかや、どのような調理が必要かの知識】です。あなたは、食品の安全に関する知識を持っていると思いますか。（1つに○）**

「十分に持っていると思う」と「ある程度持っていると思う」をあわせた“食品の安全に関する知識”を持っていると思う人の割合が61.9%となっています。

平成19年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。

